

なんきんはぜの会
第259回 小畑川通信



11月18日(土) 8:00~10:00 気温 17℃、水温 9℃、EM 26L.

参加: 大人 21 名、子ども 1 名、計 22 名 (のべ人数 8174 人).

ゴミ: 59kg (26 袋) (のべ 20 t 217kg). 資源ゴミ: 1 袋.

大型ゴミ: じゅうたん、小型テレビ、自転車のカゴ、ゴミペール、ボール 6 ヶ、かさ 2 本、虫とり網.

- 2,3 日前の雨のため、水分を含んだゴミで どの袋も重かった. 9 号線近くで鳥の写真を撮っている方が川へ降りて布製袋に入った小型テレビを拾い上げて下さった. この種のゴミは以前もありました (ソファ、洗濯機、テレビ...). たぶんリサイクルショップで引き取ってもらえなかったものを橋の上から投げ捨てられたものであろうと伝えました.
- 斜面に はえている木々までの伐採と草刈りが行われたあとで見通しの良い川となりました. 大ざっぱな枯草回収のあとに緑の力強くはえ出した草のかたまりがここあそこに. ヒガンバナです. “葉見ず、花見ず” とか “親見ず、子見ず” とかの別名. 葉は花がどんなか知らずに枯れ、そこからツーツと のび出た茎の先に見事な花がついて 9 月の彼岸の頃、私たちを楽しませてくれることです.
- 寄稿文. 今回からは しばらく京洛ライオンズのみなさまのものです.

＝私の子供の頃の本曾川の思い出＝

京洛ライオンズクラブ 下平 晃寿 (74 才)

1954 年頃、長野県の飯田市から本曾の読書村 (今の南本曾町) に幼児の時に移り住んで、小学校・中学校・高校と田舎で過ごしました。僕と本曾川の思い出は、魚釣りや洪水の後の丸太拾いが日課でした。魚は主にウグイを釣りましたが、三枚に下してフライにして食べました。中学生になると本曾川の支流の柿其川をさかのぼってイワナ釣りをしたり、夏には銚子を持ってカジカやアマゴなどを突いて楽しみました。

只、河原にはアブや日向ぼっこをしているマムシが結構いて、こちらは水泳パンツにゴム草履なので、注意をしながらの遊びでした。また、イワナ釣り等で山奥深く入ると、対岸にクマがいたりしてにらめっこすることもありました。

いまは京都に来てずいぶん経ちますが、柿其川のように本曾川の支流に入ると水も冷たく、清く澄んでいける川はあまりないので、今となっては楽しい思い出ばかりです。また、普段は静かな本曾川ですが大雨の後は濁流となって乗用車位の岩がゴロンゴロンと地響きを立てて転がるので、洪水の後は川の流れや形が変わることもありました。

洪水の後は上流から流れてきた丸太がいっぱいあるので、それを担いで家に運び、のこぎりで適当に切って、斧で叩き割って五右衛門風呂を沸かししたりしました。丸太をのこぎりで切るのは大変でしたが、おかげで腕回りは太く逞しくなったかな～笑

次回 12月16日(土) 8:00~10:00

雨の時 12月18日(月) 8:00~10:00

お問い合わせ

野崎 331-1611, 森 332-3474

